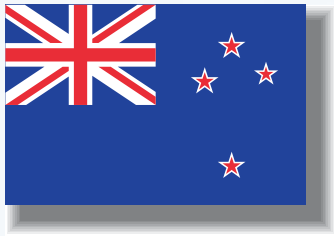
一宮市国際交流協会（iia（アイアイエー））ニュース

# かけはし

2019
Vol.82
July



TM © Rugby World Cup Limited 2015. All rights reserved.

## Welcome to Ichinomiya

（表紙：you都市）

ニュージーランドのお菓子作りセミナー　今伊勢公民館　2.15

# アンザック・デーとアンザック・クッキー

一宮市国際交流員による料理会が、14人の参加で開催されました。

講師のカサンドラさんの「私を気軽にドラと呼んで下さい」から講座は始まりました。

ここで作るお菓子は、ニュージーランドとオーストラリアが合同のアンザック軍を作り、英連邦連合軍の一員としてオスマントルコと戦い、多大なる被害を被ったガリポリの戦いを忘れないために設けられた祝日アンザック・デー（毎年４月25日）に欠かせないものなんです。当日各家庭でアンザック・クッキーを作り食べることが習慣となっています。

ニュージーランドとオーストラリアでは、この戦いから、国家としてのアイデンティティーが生まれたと考えられています。

またニュージーランドは、人口480万人と少ないのですが、先住民族マオリとヨーロッパ系、アジア系、パシフィック系と多民族国家でありながらお互いを尊重し融和させてきました。

いよいよお菓子作りに入り、彼女が手本を見せる形で大量の砂糖とバターを練り込んだクッキーが出来上がりました。受講生も後に続き仕上げ、オーブンで焼き上げて終了。

その後、飲み物を飲みながらお菓子を食べ、ニュージーランドに思いをはせながらおしゃべりを楽しみました。

今回の料理会には、日本を旅行中のドラさんの弟さんともう一人の国際交流員のアレッサンドラさんも参加して、おしゃべりの輪の中に加わりました。

（佐野）

# イタリア語でイタリア文化！

一宮市役所 本庁舎　5.10～6.7

国際交流員のアレッサンドラさんによる、「イタリア語でイタリア文化！」講座が昨年に引き続き今年も開かれました。今回はグレードアップして中級講座です。

１回目の授業からいきなりイタリア語で自己紹介！

しかし、参加者のみなさんはたじろがず、堂々とイタリア語で簡単ながらも話していたので驚きました。

２回目以降も、がんがんイタリア語を読んだり訳したり、隣同士でイタリア語の会話をしたりと、イタリア語漬けの５日間でしたが、みなさんしっかり予習もしてきて、積極的に授業を受けていました。

イタリア語の勉強だけでなく、料理のスライドを見ながら食文化について学んだり、音楽を聞いたり、イタリアのジェスチャーを覚えたりと、様々なイタリア文化の紹介があり、普段着のイタリアを知ることができました。

取材をしながら、アレッサンドラさんの音楽のようなイタリア語の発音を聞いて、意味はわからなくても、私も少しだけイタリア旅行の気分を味わっていました。

（日野）

# 世界一大きな授業 2019 in いちのみや

市民活動支援センター　5.19

ファシリテーター（進行役）のコージィさんが子どもたちの前で、ゴム輪を使った五円玉登りやゴム輪抜きの手品を始め今日の授業がスタートしました。一宮市で開かれる「世界一大きな授業」は３回目で、今回は子ども５名をはじめ17名の方々の参加がありました。最初にクイズ形式で、世界で７億５千万人の子どもたちが学校に通えない現状や字が読めない人がたくさんいることなどを知って行きます。その子どもたちを教える先生は350万人も足りないことを知りました。日本では普通なことが諸外国では普通でないことを知って驚く人も。こうした現状だとどんなことが起こるか、WEB図（関連図）に展開して解決策を各グループで話し合いながらまとめて行きます。参加者の意見は一宮市から「首相・外務大臣への手紙」として送られます。終わってから修了証がファシリテーターから受講者へ授与されました。子どもたちの意見が反映され、めぐまれない子どもたちが少しでも減ればいいですね。

この授業は国際交流協会のボランティアグループ“ファシ138”のファシリテーターたちによって行われました。

同時期に「国際理解教育ファシリテーター養成講座」が行われていて、そちらも取材してみました。見たことがない王冠が二個付いた棒、文字が書いてある小旗のようものが連なったもの。さらには、ちょっと匂いが強いペースト。これが何か想像して当てるゲーム形式のワークショップ。フリートーキング形式のワークショップでは、参加者が自由に発言し、その日のテーマを解決しながらこの手法が問題解決に適していることを自ら学んで行きます。世界一大きな授業と同じ形式で、ワークショップの進め方や手法を全７回で学んで行きます。受講生の中に、大阪の富田林市から一宮迄在来線を乗り継ぎ、大学生が参加していました。その熱心さにみなさんも驚き、休憩時間にはお話に花が咲いていました。なお、講座の詳細についてはiia迄お問い合わせください。

（ドリアン）

# イベントグループクッキング班ボランティア研修会

向山公民館　6.14

クッキング班のボランティアメンバー20人がイラン出身の仁キャリムさんにイラン料理、ファラフェル（ひよこ豆のナゲット）、ピタパン、ヒヤールシュール（イランのきゅうりのピクルス）の３種類を教えていただきました。

仁キャリムさんは、28年前に来日し、本業の翻訳、通訳の仕事の傍ら、年に４～５回いろいろな場所に招かれてお料理教室の先生をしているそうです。

参加したメンバーは、初めてのイラン料理に興味津々で、熱心につくり方を聞いていました。

ファラフェル（ひよこ豆のナゲット）は、一晩水で戻したひよこ豆、ジャガイモ、玉ねぎを細かく潰して、香辛料を加え、フライパンで揚げ焼きにしたもので、イランの南、ペルシャ湾周辺で食べられる料理です。家庭で作るより、お店で買って食べることが多いそうで、大きさはチキンナゲットとほぼ同じサイズ、香辛料が効いていて、外はカリッとした食感、日本人の口にも合います。

油をひかないフライパンで薄く伸ばした生地を焼いて作るピタパンは、上からバーナーを使って炙ると、とても簡単に風船のようにぷっくりと膨らむという裏技も教えてもらいました。

イランのきゅうりのピクルス、ヒヤールシュールは、きゅうりを茹でてから、にんにくやイランから取り寄せた５種類の香辛料を入れたピクルス液に漬け込んで一晩冷蔵庫においたものです。

ピタパンにレタス、トマト、赤玉ねぎと一緒にファラフェル、ヒヤールシュールを挟んで、イラン風のサンドイッチが完成しました。

ピタパンのサンドイッチは、ボリュームたっぷりで、とても美味しかったです。

今回使った野菜は、クッキング班が木曽川町のクッキング班の畑で作ったイタリア野菜で、サラダボールという種類のレタスと、ラリーノという短いきゅうりです。極力農薬を使わず、虫は手で取って育てました。

クッキング班は、市民向けの国際交流料理教室や外国人防災教室、日本語教室のクリスマス会、国際交流協会で活躍するボランティアと外国人の交流会などで料理を提供したり、その時に使うイタリア野菜などを畑で減農薬により作っています。毎回参加できなくても構いません、メンバーを募集しています。一緒に活動しませんか？男性メンバーも活躍していますよ。（ゆご）

# 友好都市トレビーゾワインセミナー

オリナス一宮　3.8

一昨年から始まったワインセミナーは、皆さんの声に応え、2回目の開催でした。参加者は、「ワインは自分で選ぶのは難しい」、「日頃チリワインを飲むことが多いので、イタリアワインはどうなのかな？」とか、いろんな思いで参加しているようです。

今回はイタリア出身で、市の国際交流員のアレッサンドラさんが講師です。イタリアのワインの歴史、醸造方法、種類や飲み方などを話してくれました。3種類のワインの試飲を楽しむこともできました。

## ■ワインの歴史と醸造方法

紀元前1000年頃から作り出され、ギリシャのエノトリ人がイタリアに持ってきたのが始まり。ワインのグレードには、テーブルワインから、保護指定地域表示のIGT、DOC、DOCGと4種類があるそうです。ちなみに、フランスワインのDOCGはシャンパン1種だけですが、イタリアは74種類ものDOCGを産出しています。ワインの作り方には、5つの段階があり、①収穫②圧搾③発酵④ろ過⑤熟成です。

## ■ワインの味わい方

①目で見る…まず色を見ます。

②鼻で感じる…果物や木の実など複雑な香りを楽しみます。

③口で飲む…ゆっくり舌で味わいます。爽やかさ、マイルドさ、タンニンなど、その時々の気分に合わせた味を楽しみます。

## ■試飲の赤ワイン

IGTに分類されたワインで、サラティン社のピノ・ネロでした。ラテン語の「nunc est bibendum」のいわれがある「今は、飲むときだ」と一般的に飲むワインです。サラミ、肉などの食事と一緒にいただきます。真赤色で、さくらんぼ、ラズベリーの香りがあり、タンニンがあっても爽やかな飲み口でした。飲んだ人からは「赤の割に癖がなく、少し酸味のある飲みやすいワインですね」との声が聞こえてきました。

## ■試飲の白ワイン

DOCのプロセッコで、いつでも飲むワインです。優しいスパークリングで、グレーラという種類のブドウが、80％以上で作られています。世界中で一番売れています（4億本）。濃い黄色で、りんごや桃の香りがあり爽やかな辛口のワインです。

魚料理やチーズなどと、とても良い相性です。「いくらでも飲めるワイン」との声もありました。

## ■試飲のトルキャート

最高級のDOCGが付いた特別なワインです。狭い地域でしか収穫されない、ボスケーラという種類のブドウを使います。トルキャートとは、圧搾機の名前で、120kgのブドウから20ℓしかできない自慢の逸品です。色は濃い金色で、蜂蜜、バニラ、ドライフルーツや、木の香りがして酸味と甘味のバランスの良いデザートワインです。ビスコットやチョコレートに合います。参加者からは、「梅酒みたい」とか、「貴腐ワインみたい」だとか大人気でした。

アレッサンドラさんのワインと故郷トレビーゾへの愛溢れる話でした。イタリア人にとって「ワインは文化であり生活の一部」、トレビーゾの人々がワインを、そしてトレビーゾを誇りに思う気持ちがひしひしと伝わって来ました。参加者は始め緊張気味でしたが、セミナーが進むにつれて、会話が弾み、試飲が始まる頃には、各自のワインへの思いや、感想など自由に話していました。トレビーゾの位置さえ曖昧だった人たちも、トレビーゾが身近になったのではないでしょうか。

（みかん）

## ラグビーワールドカップ2019™、一宮市は2カ国の公認チームキャンプ地に

# もっと知ってW杯を楽しもう！ ニュージランド&南アフリカ共和国

9月20日から11月2日に開催される「ラグビーワールドカップ2019日本大会」。公認チームキャンプ地の一宮市には、ラグビー強豪国と名高いニュージーランドと南アフリカ共和国のチームがやってきます。今回は、ニュージーランドでラグビーをプレイしていた松尾さんと、南アフリカ共和国でJICA（国際協力機構）の活動をしていた佐藤さんに、それぞれの国のお話を伺いました。

## ●ニュージーランド（New Zealand）

**Q.どんな国民性と感じましたか？**

フレンドリーでお世話好き。ヨーロッパ系やパシフィック系まで移民の多い多民族国家で、差別はなく懐の深さを感じます。のんびりしていますが、自分の意見ははっきり言うところも好印象。「キウイハズバンド」と言って、男性も積極的に家事育児に協力しています。

**Q.住んでいた街はどんなところ？**

都心まで車で20分ほどのTitirangi Auckland（ティティランギ オークランド）です。ニュージーランドは都会でも公園が多く緑豊かですが、その街は本当に自然に溢れていたので、ブッシュウォーク（ハイキングのような国民的アクティビティ）で癒されていました。

**Q.おいしいNZグルメは？**

フィッシュ&チップス、パイとアイスクリームが皆さん大好き。ただ国民の健康に配慮して、砂糖に税金をかける動きもあるみたいです。あとは、グリーン・マッスル（緑がかったムール貝）はサイズも大きくワイン蒸しが最高です！

**Q.NZのいいところは？**

NZでは色々な場所に旅行しましたが、南島のLake Tekapo（テカポ湖）がお気に入りです。夜に無数の星が見えた時は感動しました。とはいえ私はラグビーのためにNZへ行ったので、やっぱり1番はラグビーです！

緑豊かな都心の公園には羊や牛も放牧されています

**Q.NZにとってのラグビーの位置付けは？**

文句なしに1番人気！子どももお年寄りもスタジアムで応援して、プレイに対する議論も活発。宗教のようだと言う人もいます。NZ代表のオールブラックスはテレビCMにも頻繁に登場するし、試合をすれば強くてかっこよく、子どもは自然とオールブラックスに憧れます。

**Q.オールブラックスの魅力、強さの秘密は？**

小さな田舎町にも必ずクラブがあり幼い頃からラグビーに親しむので、有望選手が海外移籍しても、優秀な選手が次々と出てくる層の厚さがあります。体の大きなパシフィック系移民には一攫千金を狙う人もいて、彼らの存在もNZラグビーを支えています。プレイの凄さ以前に人々のロールモデルであることが重視されるので、人間的にも魅力的です。

## ●南アフリカ共和国（Republic of South Africa）

**Q.どんな国民性と感じましたか？**

私が関わった南アフリカ人は、とても親切で話好き、日本人感覚だと時間や約束にはややルーズですが、宗教は身近で皆敬虔なクリスチャンでした。

**Q.住んでいた街はどんなところ？**

東部にあるムプマランガ州マレラネ地区に住んでいました。州都はショッピングモールもある都会ですが、私の町は田舎で断水や停電は日常茶飯事。一方で携帯電話の普及率は高かったです。田舎な分、犯罪は少なく穏やかでしたが、夜になると稀に銃声が聞こえました。

一度ラグビーを観戦したヨハネスブルグのスタジアム

**Q.南アフリカのおいしいグルメは？**

個人的に「ビルトン」は、つまみにぴったり。牛や鶏など様々な肉で作り味付も色々楽しめるジャーキーです。買うならお土産用の真空パックより、町の店で塊を削って量り売りしてくれる方が断然でおすすめ！ 新鮮さが違います。あとルイボスティーは有名ですね。

**Q.南アフリカのいいところは？**

大都会と田舎のアフリカらしい景色、そして大自然が融合した国であること。国立公園でのサファリや、海の生物との触れ合いなど、広いアフリカならではの自然は素晴らしく、観光地として整備もされているので快適です。日本から丸1日かかりますがおおすすめです！

**Q.南アフリカでラグビーの位置付けは？**

サッカーも皆に親しまれていますが、ラグビーは南アフリカの国民的なスポーツです。テレビにラグビー専門チャンネルがあったり、CMにラグビー選手が登場したり、人気であることは間違いありません。スタジアムで聞いた6万人を超える人の国歌には魂が揺さぶられる感覚がありました。

**Q.スプリングボクスの魅力、強さの秘密は？**

南アフリカ共和国代表チームの愛称は「スプリングボクス」で、迫力満点のパワフルなラグビーが1番の魅力。最近はスピードのある選手が多く活躍していて、今のキャプテンも素晴らしい選手です！

（たけうち）

## ラグビーを通して生まれた絆～松尾さんの海外経験を伺いました～

高校時代の活躍が認められ企業チームへ。後に地元の一宮ラグビークラブの黄金時代の時期にプレイ出来たことも良い思い出です。海外には興味がなく英語も話せませんでしたが、オーストラリア遠征をきっかけにラグビーの本場・ニュージーランド行きを決意。こつこつ貯金して挑戦したので、お金の有難味もよく分かりました。今でこそ少しは縮まりましたが、日本とのレベルの差は歴然で、最初は「こいつがやれるのか？」と疑い半分でしたが、練習後は必ず復習してノートに書き留める私を見て次第に仲間も手伝ってくれました。

一生懸命にやり結果を出せば人種関係なく受け入れてくれて、絆を感じずにはいられませんでした。現地では体の小さい私が大きな相手に良いタックルを連発し徐々に認められ、2年目以降は一軍でプレイするまでに。「Tomo」と呼んで可愛がってくれた皆に心から感謝しています。首の大怪我後はまだラグビーが出来ませんが、リハビリを頑張って、いつかまた彼らと一緒にプレイすることが夢です。

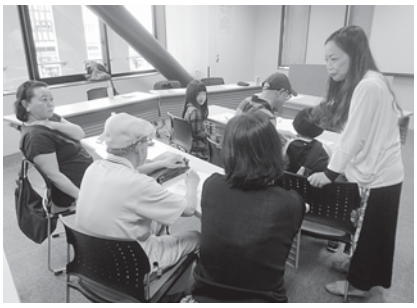
一軍専用の制服を着たチームメイトと松尾さん（写真中央）

## ホームステイ受け入れセミナー
# ～はじめよう！ホストファミリー～

市民活動支援センター　6.9

ホームステイ受け入れに興味がある方に向けて、セミナーが開催されました。
ホームステイの概要説明が始まると、皆さん真剣に耳を傾けていました。

ホストファミリー（受け入れ家族）の体験をした浅井さんからは、言葉を越えた交流ができたという素敵な体験談が聞けました。ご飯の準備や言葉など不安になることはなく、まずはゲストの国を知って勉強することから始めるのが良いとのことです。「机上の学びとは雲泥の差なので、子どもたちのためにもホームステイを体験させてあげるのが良いですね！」と熱弁されていました。



国際交流員のアレッサンドラさんによるゲスト（ホームステイする側の人）の体験談では、「家族の一人として迎え入れてあげることが大切」「ホームステイする側も不安だから優しく接してあげてください」という話がありました。

最後に、体験者の方々に質問ができる相談会があり、皆さん積極的に質問しており、笑顔で話をされていてワクワクしているのが伝わってきました。

セミナーを聞き、感化されて私もホームステイのボランティアの申込をしてきました。ホームステイを体験される皆さんに素敵な出会いがあるといいなと思います。　（大野）

## 平成30年度ボランティア研修会
# 「これでいいの？日本の英語」
# ～カタカナ英語を伝わる英語に～

愛知県三の丸庁舎　1.26

愛知県国際交流協会主催の首題の研修会に参加してきました。
講師はイングランド、Derby生まれのポール・スノードンさん。日本に来て40年以上英語教育に携わってきたため、上手な日本語で語りかけてきました。
「日本にはカタカナ英語が溢れていて店舗の看板などにもたくさんの外来語が使われているが、ネイティブから見ると奇妙なものが非常に多い。」と言ってその実例を写真とともに示してくれました。気を付けなければならない例として、看板文字ではLとRの誤記、発音では「-o」の発音、文章では日本語にない複数形など思わず笑ってしまう実例がいっぱいでした。その実例として、
Boy: This is my dog, Pooh.
Student: Oh, I like dog very much.
Boy: Ugaaa, help!
この場合は、dogsかthe dogでなければならない。dogでは犬の肉が好きということになってしまう。日本人は冠詞を名詞につけるアクセサリーのように考えているようだが、a、the、複数形の-sは単なる文法の問題ではなくて、英語のネイティブにとって論理の根本の問題ということのようです。
英会話のやり方についての提案もありました。①会話はテニスのラリーのようにゆっくり続ける。②会話は下手な方が6割話すように。60／40のルール。③質問を受けた時は、単にYes/Noではなく、その質問よりも長い言葉で返答すること。
他にも、携帯電話という言葉を a small telephone in your pocket のように他の英語で相手に伝えるようにすると英語が早く上達するというアドバイスがありました。
県内各地から集まった参加者は英語ができそうな人たちでしたが、それでも講師の話が面白かったのか、終了後もスノードンさんを取り囲んでいました。
（荒楠）

# おとなりさん

市内本町アーケード通りにベトナム食材を売る店がオープンしました。店の名前は「チョー・ヴェット・ニャット」で「日本のベトナム市場」という意味だそうです。店に入るとベトナムと日本の国旗で飾られた華やかな雰囲気の中に、ベトナム食材が並んだ棚が目につきます。来客の80％が市内在住のベトナム人で肉、野菜のほかヌクマムなどのベトナム調味料が良く売れているとのことでした。

オーナーはチャン・クアン・ファンさんです。おとなりさんの取材を快く了解して、店長のグエン・バオ・チュンさんを紹介してくれました。

チュンさんはベトナム中部のタンホア出身で、父母と姉の４人家族でした。日本に来た理由は、日本の大学へ進学するためで、長崎の大学で機械工学を学び卒業しています。日本語能力試験もＮ１に合格していて、日本語は完璧に話せます。チュンさんは31歳で奥様と０歳の一人息子の３人で市内に住んでいます。

一宮は、「夏は少し暑いけれど、心の暖かい人が多くて住みやすくていいところですね。」と気に入っている様子でした。好きな食べ物は刺身で、特にタコが大好きだそうです。ベトナムの食べ物では、バイン・ミーというフランスパンに野菜などを挟んだサンドウィッチのようなものが好きでよく食べるそうです。きしめんのようなフォーは、レモンとチリ味の調味料を入れると美味しく食べられるのでおすすめとのこと。日本に来てから、大学生活をしていた長崎のほかに、佐賀、岐阜、大阪、東京などに出かけています。

チュンさんは大学を卒業したエンジニアですが、将来の夢について聞いたところ、「日本でお金を貯めて、ベトナムで自分の事業を始めたいと思っています。今は家族と幸せに暮らせている。」といまの生活に満足しているようでした。

真面目でおとなしいおとなりさんでした。

（荒楠）

# iia information

## 世界をまなぼう！ セタグローバルサマーセミナー

日時：７月24日（水）　午前10時～午後４時
会場：本庁舎14階大会議室
内容：国際理解ワークショップ『南アフリカのペンギンを救おう』、小学生英語教室『一宮西高校国際理解コースの生徒と英語で遊ぼう！』、国際理解セミナー、無料クラフト、フェアトレード商品がもらえるスタンプラリーなど

### 特別公演

時間：午後３時～４時

劇団バナナによる
日英バイリンガルシアター
「ふしぎのくにのバナナ」

＊協会事業を支える国際交流基金への寄付を募集しています。
また、一宮市の国際交流の中心となって活躍いただく親善ボランティアも随時募集しています。
詳しくはiia事務局までお問い合わせください。

## 世界をあそぼう！ フレンドシップフェスティバル2019

日時：９月28日（土）、29日（日）
午前10時30分～午後５時
会場：イオンモール木曽川 ノースコート
内容：世界のステージ、クラフト体験、民族衣装の試着体験など

## iia Facebookページ

イベントのお知らせや、外国人のみなさんに役立つ情報を多言語で発信しています。
Multilingual posts about event notices and helpful information for foreign residents.

# 地球あっちこっち

## メキシコから iHola!

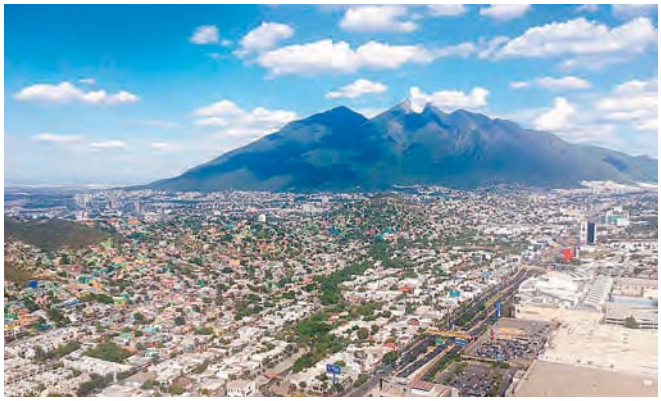
丹羽 有梨

サボテン、テキーラ、タコス、地球のほぼ裏側の国…その程度のイメージしかありませんでしたが、主人の海外赴任が決まり、突然私のメキシコ生活が始まりました。

私の住んでいる場所はモンテレイというメキシコ第三の都市です。サボテン、大きな帽子を被ってギターを弾いているおじさんがいる風景は私たちの街にはありません。比較的アメリカの国境に近いところにあり、外国企業が多く進出している工業都市です。

メキシコへ来た当初は初めての海外生活、メキシコという国に慣れず戸惑いの連続でした。特に言葉の問題。メキシコの共通語はスペイン語です。レストランやスーパーでは基本的にスペイン語しか通じません。初めてメキシコ料理を注文した時、店員さんに何度も「これでいいの？本当にいいの？」と聞かれました。そうして出てきた料理はバッタまみれでした。（バッタはメキシコの伝統的な栄養食です）その後も店員さんは私たちをからかって何度も美味しいかどうか聞きにきました（笑）。その日から私は生きていく為にスペイン語を頑張ろうと固く誓いました。他にも、信号の停車中に窓拭きをしてお金を要求する人がいたり、レストランの食事中に下水が逆流して水浸しになったり、と例を挙げたらキリがありません。

テキーラの原料マゲイの農園の方と



モンテレイを象徴する山、セロ・デ・ラ・シージャ（鞍の山）

メキシコ人はとにかく陽気で親切です。目が合ったら笑顔で iHola!（オラ）と挨拶してくれ、私の拙いスペイン語でも一生懸命理解しようとしてくれます。音楽がかかると踊り出し、サッカーが大好きで、ワールドカップの時には会社が休みになる事もあります。ただ少し時間にルーズな面もあり困ることもあります。業者に水道の修理を頼んだ時、約束の時間になってもなかなか来なかった為電話をしました。その際今から行くと返事をもらってから更に30分後に来ました。どうやらこれはメキシコでは普通のようです。

日本での当たり前が通じないことにストレスを感じたこともありましたが、メキシコで楽しく生活するためには、メキシコのすべてを受け止めることが大切だと感じました。「郷に入れば郷に従え」を肝に命じていればだんだんと居心地が良くなるのがメキシコの不思議なところです。逆に日本に戻った時に普通に生活していけるのか不安になりますが…（笑）。

メキシコに来て約1年が経ち、メキシコ人とも少しずつコミュニケーションがとれるようになり、メキシコという国が好きになってきました。これからもメキシコの色々な場所に行き、色々な人と知り合い、メキシコの魅力をどんどん発掘していきたいと思います。

ちなみに一宮市からモンテレイまでの主な経路は、一宮駅より電車で中部国際空港へ。成田空港から国際線にてダラス、ヒューストンもしくはメキシコシティ経由で約24時間です。興味がある方は是非来てみてください。美味しいタコスとテキーラと陽気なメキシコ人がお待ちしています！

### 編集後記

ピーナッツのザクザク入ったラー油を中国人留学生からもらいました。餃子にはもちろん、万能調味料として大活躍したので、作り方を教えてほしいと頼むと、「ランちゃんの心を込めて」と書き添えられたイラストいっぱいのレシピをくれました。お父さん直伝の作り方だそうです。ランちゃんのお父さんの味が日本の我が家の味にもなりそうです。（伏原）

発行　一宮市国際交流協会　（〒491-8501　一宮市本町2-5-6　一宮市生涯学習課内）

ご意見・ご感想お待ちしています　【TEL:0586-85-7076　E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】
当協会に関する情報はウェブサイト・Facebookページもご覧ください
【WEB:https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/iia/　Facebook:https://www.facebook.com/iia138】
＊この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材・編集されています。
みなさんも国際交流協会親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。